

平成28年度 自己評価結果公表シート

学校法人 桃の里学園
桃の里幼稚園

1、本園の教育目標

本園は、変化する社会に適応し、改善していく力の獲得を目ざすために、幼児の成長の基礎となる主体的な遊びが十分にできる環境のもと、人格形成の基礎を培い、自ら考え、自ら感じ、自ら行動することのできる実践人を、遊びを中心にした集団生活を通して育成する教育を目指している。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教諭自らが、自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の充実に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
教育の質の向上のため園内研修を充実させる。	絵画製作とリトミックの指導方針は、園の教育方針にも準ずるので各研修会を通して日々の子どもの姿を垣間見ることができ話し合う機会も多くなった。
教職員間の保育に対する共通理解を行い 行い強化させるために園内研修を充実させる研究会などへ積極的に参加し 教職員一人ひとりの資質の向上に努める。	教職員間で園内研修・情報交換を行いながら園児に対する共通理解を深め見通しの持った保育を実践するよう心がけた。

<p>きめ細かい保育</p>	<p>一人ひとりへの対応、場面に応じた最良の援助、かかわり、安全などへの心配りは、各教諭の温度差があり、今後も教諭の意識向上を図っていくべき課題である。</p>
<p>支援教育の構築と充実</p>	<p>家庭と支援センターとの連携をとりながら、一人ひとりの発達に沿った指導計画書を作成することによってよりきめこまかい支援ができるようにした。</p>
<p>安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立</p>	<p>避難訓練や防災センター見学などを通して災害の際の園児の安全確保方法などを想定する機会を持つことができたが、実際に生かすことができるよう今後も引き続き全職員の意識向上が必要である。</p>

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、意見を述べ合うことを通して本園としての方針を明確にすることができ、それを各自の実践に生かし、チームとしての機能を高めることができた。

5、 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
きめ細かい保育	一人ひとりへの対応、場面に応じた最良の援助、安全や快適などの心配りなどが、まだまだ十分とは言えないので教諭の意識向上を図りたい。
支援教育の更なる充実	入園して初めて支援が必要であることが判明した子どもへのアプローチについて専門家の意見を取り入れながら その園児に合った対応ができるようにする。
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	<p>大災害を想定した大地震などの災害を想定し、様々な時間や場所での災害時の園児の安全確保の方法、事前対応、発生後の対応を細部にわたって考慮した安全マニュアルを作成しなおし、職員間でも徹底をできるように周知する。</p> <p>また、園児が安心して幼稚園生活が送れるよう不審者情報などは、全職員が共有し対処できるようにし施錠確認し、防犯ベルは必ず身に着けるよう徹底する。</p>
子ども・子育て支援新制度に向けての課題	平成30年度に向けて認定こども園への移行をめざし、行政とも協議しながら対応していく。

6、 学校関係者の評価

学校評価に前向きに取り組み、学校法人会計基準に準じて、平成28年度の経営状況および財政状況のすべての重要な点において適正に運営されていると認められている。

7、 財務状況

公認会計士監査により、計算書類は、学校法人会計基準に準じて、平成28年度の経営状況および財政状況のすべての重要な点において適正に運営されていると認められている。